



## 祝 107歳 高松雪枝さん 市内最高齢をお祝い

9月5日、敬老の日を前に、市内最高齢者の高松雪枝さんが暮らす萬翠荘を篠原市長と三宅市議会議員が訪問。二人から高松さんに、御祝状と水引細工の記念品などが贈られました。高松さんは「こんなに祝ってもらったのは生まれて初めてです。うれし過ぎます」と笑顔で話しました。篠原市長は「自分の体を大切に、家族と会ったりしながら元気に過ごしてください」と述べました。



高松雪枝さん（下柏町）  
大正4年（1915年）生まれ  
107歳  
長生きの秘訣はテレビ体操と好き嫌いせず食べること。

## 山の恵みに感謝 てらの・金砂湖畔広場夏の感謝祭



8月20日に金砂湖畔公園で開催された感謝祭には、産直市や田舎料理の販売、木工製品の即売などのブースが軒を連ね、訪れた家族連れで朝早くからにぎわっていました。恒例のアメゴのつかみ取り大会には、今年も多くの子どもが参加。プールの中を素早く泳ぐアメゴを元気に追いかけていました。

## 夏空の下で思い出作り 翠波高原 コスモスマ祭り



8月20日に翠波高原で開催されたコスモスマつりは、青空の下でコスモス畑をバックに行われた、フラダンスショーが始まりました。恒例の紙相撲には、今年も多く家族連れが参加。自分たちで色を塗った手作りの力士を応援しながら、懸命に土俵を叩いていました。

## 関東大震災から100年 巨大地震に備えて防災訓練



9月3日、長津小学校を主会場とした防災訓練に、地元自主防災組織や自治会、消防団、住民など約200人が参加。避難者を誘導したり、マンホールトイレを設置したりして、避難所の設置と運営を行いました。また、煙が充満する中での避難体験や放水体験も実施。防災意識を高めました。

## 感動をありがとう川之江高校野球部 甲子園出場記念パネル展開催



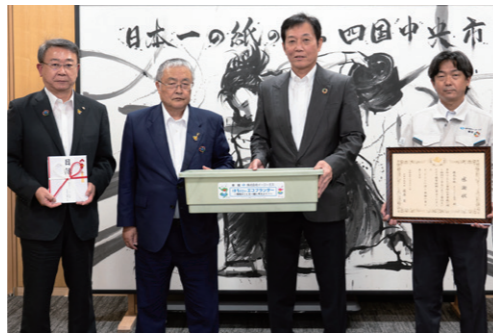
四国中央市発足後、初の快挙となる甲子園出場を果たした川之江高校野球部の写真パネル展が、8月23日から1か月間、市役所1階ロビーでありました。パネル展には写真のほかに、応援グッズや実際に選手が甲子園で着たものと同じユニフォームが、後援会などの協力により展示されました。

## 日本一の紙のまちを感じて 大王製紙(株)がねりんピックに協賛品



9月4日、大王製紙株式会社（若林頼房代表取締役社長）から市ねりんピック実行委員会に、協賛品としてボックスティッシュ1260カートン、マスク2560パックが贈呈されました。贈呈式で同社の増田明央執行役員（写真左）は「選手のみならず、日本一の紙のまちを感じながら頑張ってください」と話しました。

## 子どもたちに資源の大切さを伝えたい （株）イージーエスがエコプラランター寄贈



8月31日、新居浜市に本社を置き産業廃棄物処理などを手がける株式会社イージーエス（加藤和宏代表取締役社長・写真中央右）から市内全小中学校に、ペットボトルキャップをリサイクルしたエコプラランター686個が寄贈されました。加藤社長は「子どもたちに資源循環などの環境意識を高めてほしい」と話しました。

## 使うことが一番の訓練 伊予三島赤十字奉仕団に移動かまど贈呈



8月28日、日本赤十字社愛媛県支部から伊予三島赤十字奉仕団（石川祐子委員長・写真中央）に、移動かまど1基が贈呈されました。念願だったという移動かまどを前に石川委員長は「防災訓練だけでなく、日頃から使うことで、いざというときに役立てたい」と話しました。

## 本市の魅力を手にして シンワ(株)がねりんピックに協賛品



9月7日、シンワ株式会社（井上和久代表取締役社長・写真右）から市ねりんピック実行委員会に、協賛品としてオリジナルデザインの不織布手提げ袋1500枚が贈呈されました。井上社長は「本市の製品を実際に手にしてもらい、良い機会です。参加される多くの方に魅力を知ってもらいたい」と話しました。

## 日本の未来を背負う子どもたちへ （公財）藤井財団がDVD寄贈



9月4日、本市出身の藤井勝典さんが代表理事を務める公益財団法人藤井財団（大阪府）から市内18の放課後児童クラブに、DVD「世のため人のため絵本シリーズ」10種類が寄贈されました。これまでも同財団は、起業家精神を育んでほしいと、さまざまな偉人に焦点を当てた絵本やアニメを制作・寄贈しています。

## 育てて食べて学ぼう 学校給食米収穫祭で生きた食育を



8月26日、土居町蕪崎の田んぼで開催された学校給食米の収穫祭には、市内の小中学生など207人が参加。抜けるような青空の下で子どもたちは、黄金色に実った稲穂を競うように刈り取りました。この日は食育クイズやおにぎりパーティー、お米にかかると手回しまると、その美味しさを実感していました。



## ねんりんピックまで50日 JAうまで大会PR



開催まで50日となった9月8日、JAうま川之江中央支店にご協力いただき、大会をPRしました。本市では10月29日から2日間、ラグビーフットボールと健康マージャンの2種目が行われます。



市内の風景や文化財などを掲載。売上金は文化財の保存などに活用されます。  
販売 10月下旬から  
価格 800円(税込)  
問い合わせ先  
四国中央ユネスコ協会事務局  
(四国中央テレビ内) 24-0130



9月3日、川之江ふれあい交流センターで四国ブロック・ユネスコ活動研究会が開催され、四国4県のユネスコ会員など約100人が参加。四国中央ユネスコ協会の活動報告や愛媛大学紙産業イノベーションセンターの内村浩美センター長らによる講演に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

## 文化の伝承と新たな可能性 ユネスコ活動研究会が本市で開催

まちの出来事をお届け



「全国JOCジュニアオリンピックカップ」が夏季水泳競技大会に出場を決めた、中田陸翔さん(三島東中3年)、宮崎倅歩さん(同1年)、脇遠平さん(川之江小5年)、森下泰明さん(中曾根小6年)が、篠原市長を表敬訪問。泳ぎ込んだ日々の練習を振り返りながら、それぞれの目標を市長に伝えました。

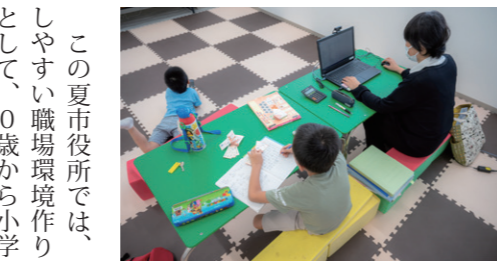
## 泳ぎこんだ日々を自信に エリエールスポーツクラブの選手全国へ



県中学校総合体育大会で、川之江南中学校女子バレーボール部が2位の成績を収め、8月20日から松山市などで開催された「全日本中学校バレーボール選手権」に出場しました。8月18日に篠原市長を表敬訪問した同部の福永彩稀部長(3年・左端)は「全力を出し切りたい」と決意を新たにしました。

## 全てを出し切りたい 川之江南中女子バレーボール部全国へ

この夏市役所では、子育てしやすい職場環境作りの一環として、0歳から小学3年生までの子どもがいる70人の職員を対象に「こども連れ出勤制度」を試験的に実施しました。職員が勤務する執務室またはサテライトオフィスで、業務をしながら子どもと過ごすこの制度。今回の試験期間中には、延べ18人の職員と28人の子どもが利用しました。終了後には、制度を利用した職員やその同僚を対象にしたアンケートを実施。人事課は、今回の試験結果を踏まえ「今後の制度運用について検証するとともに、引き続き子育て世代の職員を応援する職場環境作りに努めていきたい」としました。



実施期間 7月21日～8月31日  
利用者数 職員18人、子ども28人(いずれも延べ人数)

## こども連れ出勤制度を 試験的に実施しました



8月28日、中田珠算塾(中之庄町)の生徒26人が篠原市長を表敬訪問。島根県で開催された「雲州そろばん珠算競技大会」で、優秀な成績を収めたことを報告しました。学校や学年が異なる塾生同士が助け合いながら練習に取り組んだことなどが結果に結びついたと話しました。

## 練習の成果を競う 雲州そろばん珠算競技大会で入賞



7月30日に長野県で開催された、文部科学大臣賞決勝戦「全日本健康麻将選手権」に、四国中央チームの4人が出場。見事準優勝に輝きました。8月22日に篠原市長を表敬訪問した4人は「普段から楽しくプレーしている仲間と、このような結果を残せたことがうれしい」と笑顔で話しました。

## ねんりんピックでの活躍にも期待! 四国中央チームが全国大会で準優勝

## 市長のひとりでごと

「もうどうにもならないぜ!」と思うような夏、じつとしていただけで汗が出る。車のドアもやけどしなように、そーっと手でやさしく開けていた。夕方、油断すれば蚊がそーっと何匹も寄ってくる。夏をしぶとく凌いだ2匹の蚊が左の手首にくらいついている。一瞬、可哀そうに思ったが、右手がパシッと叩いていた。夕方の殺生はあまりいい気はしないが、見逃すほど私も修業はできてない。

### 赤ん坊は市民の宝

「3人目の赤ん坊は自宅で家族の手を借りて出産するの」と気合いを入れていた娘に女の子が誕生した。ご苦労さんでした。みんな応援しているよ。

夏は暑ければ暑いほど、たくさんのメモリーがある。第一、命があったと思う。まだまだ残っている仕事に性根を入れなおして、がんばれと叱られているようにも思える。

四国中央市長 篠原 実

夕方、市役所から望む西の空(9月11日撮影)



サンフランシスコ市出身のジャック・マツルさんが、8月から市国際交流員(CIR)に就任しました。日本にルートがあるというジャックさん。14歳から日本語を勉強し、大学卒業後は新居浜市で勤務していました。今後、イベントや講座などを通じて、国際理解のための交流活動をしていきます。

## 名前はジャック・マツールです 新しい国際交流員が着任



8月23日と24日の2日間にわたり、しこちゅーホールで行われた「紙で楽しむ!ひうち灘の海をつくろう!」には、幼児から小学生まで82人の子どもたちが参加。市内企業から提供された紙製品を使って魚を作り、漁師さんから提供された網に飾りつけ、燧灘を泳ぐ大きな魚を作りました。

## アートを通じて地域を知ろう プレアート体験事業実施